

HIKO NEWS FLASH

No. 4 April 1949 榮光中学新聞部 横須賀市田浦町船越

高松宮殿下御來校

四月十二日高松宮殿下はデッカー大佐と共に御來校された。最上級の三年生は迎へに出て道の両側に並んで立っていた。そして事務室の前で下車校長先生に案内されて校長室に行かれた。そこで本校の歴史生の道徳訓練等について種々校長先生と共話しの上授業を御覧等になられた。特に英語の勉強には興味をお持ちのような様子であった。御見学なされた時は一年B組とC組、二年A組三年A組でこの日、校舎、聖堂、理科校舎を御覧になつてから父兄及生徒一同の待つてゐる講堂へと入つてこられた。

(30)

天皇と皇族

高松宮殿下の御來校の前日にシユトルテ先生から次の様な話があつた。

「高松宮殿下が我が校にいらつしやるのは、本校にとつて非常に喜ばしいほこりとすべき日である。さてそれはともかく國民の皇室に対する態度はどうであるか、終戦と共に日本の存続は大きな変化するし、軍國主義から民主主義の國となつた。その爲に天皇の地位も全く變つてしまつた。終戦までは一部の人々の宣伝によつて天皇は神様であると想われていた。このほかはかしい思想が現在の日本のあつた状態を成した原因の一つである。しかるに民主主義となつた現在、今までは反対に天皇を玩具扱いにする人々が多くなつた。天皇は何を食べよか、お金のどの位使ひよか等の様な新聞記事がなんとも多いことである。日本人は天皇陛下、その他皇族の方々に一体どう考へてゐるのか全く疑わしい状態にある。天皇は神ではない。しかし民主主義になつても天皇は天皇だ、皇族は皇族だ、新憲法によれば天皇は日本の象徴だ。故に天皇を神として禮拜しないのは勿論の事だが我が國の象徴として認め尊敬するのは当然の事である。天皇陛下は我々と同じ人間でいらつしやるから長所もあり又長所もあるが、天皇は日本人、日本國の象徴たることを忘れてはならぬ。少なくとも榮光の生徒として天皇陛下に対する正しい考へと態度を知らなくてはならない。」

(31)

新先生の横顔

僕はこの話を聞いた時、目の前に又が現われてさつくり自分を飲みこんでくれはいいと思つた。つい十分位前に高松君だとかなんだかいつて友達扱いにしてみんなど話さしていらからである。我々榮光の生徒はだれに來た日本に新しいかもしも元首に對する本當の礼儀、尊敬、考へをその精神と実行を講じて教えよう。(32)

新学年の各組

新しい学年が始まつた。五年は組がえがなかつたが今年も三年を一つにまとめた。ぐるぐるとかきまわし三年を二つ又は二年を三つに分けたよつた形だ。然しこれはいつも同じ類ばかり見ている人にとつて加へつてよいしけきになる。然し友達はなつかしい故話などをしに行くと「なんだ、もらわれていつたく社に」等とゆう赤友を確信す口上手がいろいろだ。

一年生は総数一六五名でそれぞれ四つの組に分けA組四二名B組四一名C組四一名D組四一名

である。さて主任の先生は34歳村先生、38歳山先生、24歳尾先生、28歳井先生、21歳見先生、14歳山先生、16歳川先生、16歳畑先生、17歳口先生である。さて見渡して見るとも28歳よりもらわれて34に行つたらもらわれぬ又一年戦村先生にしほられるのだと思つとうんざりするといつていさ。

(34)

四月十二日高松宮殿下はデッカー大佐と共に御來校された。最上級の三年生は迎へに出て道の両側に並んで立っていた。そして事務室の前で下車校長先生に案内されて校長室に行かれた。そこで本校の歴史生の道徳訓練等について種々校長先生と共話しの上授業を御覧等になられた。特に英語の勉強には興味をお持ちのような様子であった。御見学なされた時は一年B組とC組、二年A組三年A組でこの日、校舎、聖堂、理科校舎を御覧になつてから父兄及生徒一同の待つてゐる講堂へと入つてこられた。

「高松宮殿下が我が校にいらつしやるのは、本校にとつて非常に喜ばしいほこりとすべき日である。さてそれはともかく國民の皇室に対する態度はどうであるか、終戦と共に日本の存続は大きな変化するし、軍國主義から民主主義の國となつた。その爲に天皇の地位も全く變つてしまつた。終戦までは一部の人々の宣伝によつて天皇は神様であると想われていた。このほかはかしい思想が現在の日本のあつた状態を成した原因の一つである。しかるに民主主義となつた現在、今までは反対に天皇を玩具扱いにする人々が多くなつた。天皇は何を食べよか、お金のどの位使ひよか等の様な新聞記事がなんとも多いことである。日本人は天皇陛下、その他皇族の方々に一体どう考へてゐるのか全く疑わしい状態にある。天皇は神ではない。しかし民主主義になつても天皇は天皇だ、皇族は皇族だ、新憲法によれば天皇は日本の象徴だ。故に天皇を神として禮拜しないのは勿論の事だが我が國の象徴として認め尊敬するのは当然の事である。天皇陛下は我々と同じ人間でいらつしやるから長所もあり又長所もあるが、天皇は日本人、日本國の象徴たることを忘れてはならぬ。少なくとも榮光の生徒として天皇陛下に対する正しい考へと態度を知らなくてはならない。」

新しい学年が始まつた。五年は組がえがなかつたが今年も三年を一つにまとめた。ぐるぐるとかきまわし三年を二つ又は二年を三つに分けたよつた形だ。然しこれはいつも同じ類ばかり見ている人にとつて加へつてよいしけきになる。然し友達はなつかしい故話などをしに行くと「なんだ、もらわれていつたく社に」等とゆう赤友を確信す口上手がいろいろだ。

一年生は総数一六五名でそれぞれ四つの組に分けA組四二名B組四一名C組四一名D組四一名

(35)

す。山崎先生、この戸しまりまじ
んに、「山崎先生ですから出さな
は変はありませぬよ」「でござ
せん」「中学生ではありません
ね」。

山崎先生の巻くまでめいもくが
つやにしている。じれつたくなる
もうよろしいと言つてもいい、こ
ろば、細く白きおいて帰てみる
と、先生は、温面図交類をして
扇振の指を向けて、おきま
してつらくなつた、あくじれつ
ひ。

山崎先生の巻く「予定のところ
まで行かなくて頼つてなあ」と
頼つたが、あてくりにかえず、林
先生の「ね」は一時三三三回の
記録があるが、とりまでは行く
まいがね。

山崎先生の巻く山崎先生と親子
關係の巻である。身仕山ざい
きは日よりも早くと言つからちつ
と巻くわいぞ。

山崎先生の巻く山崎先生と親子
關係の巻である。身仕山ざい
きは日よりも早くと言つからちつ
と巻くわいぞ。

田辺山のキマンプ

三月二十八日(日)曇り。朝
於天狗院は大輪車5時30分発の
汽車で出発し、大森野原下車、
8時45分出発、最毛道10時、早
稲池をたぐり出発、マヒツ峠(30
00米)11時30分着。油坊(530米
あり)から預備が五六寸もつ

つていた。みんな雪の上に踏を
押しつけて面を作つた。札幌小
島までの道は雪が深く、大変困
難であつた。そのため天狗さん
がつづけて三回もしもちをつ
いた。札幌小屋着は1時30分。直
ちに荷物整理、後園宮に入りタ
食後死床。

三月二十九日(火)晴。山上
々、曇りし6時起床。朝食後出
発。僕らの後に崎王孫のがすか
べの人たち五人がリーダー病
氣のためにあつて来て来た。
途中の道は雪が一尺以上もつち
つていて、大変困難であつた。
しかし木の枝などに雪がもつ
ているのば天然のクリスマス・ツリ
ーを見る様で大変面白が良かつ
た。格ケ岳(一四九一米)頂
上着は1時30分、黒色は驚愕しか
つた。北には沢尻、蛭ヶ嶽、円
沢三峯等幾つにおゝわかれて一面
の白銀の世界であつた。南は相
模嶺、真つる崎、江ノ崎、なつ
かしの三浦半島が見えた。去年
の同三月二十七日遭難した学生
の慰霊碑の前に遭難者の冥福を
祈つた。登降小屋に於て弁当を
食べたが、あまり寒くてみんな
ふるふるふるふるてしまつた。食
後直に下山、札幌小屋着は1時30
分、川原で炊事を終つた。19時
小屋の中の人と歌の会、後22時
就床。

三月三十日(水)晴し札幌9
時出発、沢尻林道を下つて途中
布川に下りて炭焼小屋に出で
る。炭焼の事を質問し、後布
川進行、小屋下12時着、川原で
炊事を終つて後、工科大学の
準備のため小屋にかへつた。中

てんの得意のしるこ、天狗の自
慢のパンケーキの味はなんとも
云たなかつた。エネを食べたが
らゲエスチマエ五つた。
三月三十一日(木)晴し今日
は下山の日だ。荷物とリュック
に入れて中村さんと別れてマヒ
ツ峠に向つた。峠に大森野原
に過ぎ山田急電車、省線を利用
して下界へと帰つた。

みどりの週間

四月一日から七日までは緑の
週間であつた。本校でもこれに
適み夜庭の祭に参入である。
坂道の左側、お聖堂の入り、
聖山寺に鐘々と響えられて行く
苗は敷から毛、五千、山梨五本
アカシヤ五本であつた。他は学
校で買つた。又或る生徒の父か
らの贈り物、ヒマラヤ杉三本
が贈られた。その中の一本は高
松宮殿下がお手紙えになつた。
坂道とかその他の場所は学校の
久口の文具店の御主人、橋本
さんの勤勞半仕によつて植えら
れてゐる。紙上深く感謝申上げ
る。

又聖堂の周りは二三年育ちの若
木によつて覆いつけられた。
これからも生徒の自発的な努力
と作業を望む。又土手の上の花
壇は一通に一つづつ追加して世
話をし親手しつらうもいろいろ
あろう。(34)

捕鯨船見

四月十五日(日)希望者は二
八八名、大洋漁業の捕鯨船見
一日新丸を見学に行つた。佐馬

船に乗つて第一新丸へ、準備
長さんのお話は、「今日、日本
には二つの捕鯨船団があり、ノ
ルエーワ、イギリス、4などの捕
となつてあり、日本はもつとよ
い船と、船団が必要である。
この捕鯨が、いかに現在の日本
の産業に役立つかなどを話され
た。それから各班に分れて、船
の中をいろいろと見学し、大き
な鯨のひげなどを拾つた者もい
た。そして希望は、このよう
な船を日本産業の復興のために
努力してくれてゐる船員の方マ
に感謝しながら、四時頃帰航し
た。(36)

四月十七日の御復活の大聖日
に、僕は早く上智大学の教会
堂の祝堂式に参列するため足を
はこんだ。電車にもまれて、四
つ谷の駅にやつと着き、乗車出
ると教会がすぐ目の前に見えた。
祝堂式に来た人々の行列は一刻
一刻時が正つにつれて、目に見
えるように長くなつて行く。そ
して定員以上をも越える程にな
り、聖堂に入れない人もあるが
もれないと、大層であつた。

上智大学聖堂

四月十七日の御復活の大聖日
に、僕は早く上智大学の教会
堂の祝堂式に参列するため足を
はこんだ。電車にもまれて、四
つ谷の駅にやつと着き、乗車出
ると教会がすぐ目の前に見えた。
祝堂式に来た人々の行列は一刻
一刻時が正つにつれて、目に見
えるように長くなつて行く。そ
して定員以上をも越える程にな
り、聖堂に入れない人もあるが
もれないと、大層であつた。

来てある。ここは聖イグナチオ教会
をみるからであらう。
まもなく、人々は氷水のごとく増
して来る。せりしてゐるうち土井東
宗大司教がこられた。九時になると
皆並んで一千人も人が聖堂の中
に入った。だが入れなかつた人々が六
百人も聖堂と云う。聖堂の中の様子
を一言、入つても御座らない、すは
らしいなあ、の一言に感ずる。天井
はまわるとさきの方へとついで
として祭壇の上の長い窓のよう
なものは、赤、黄、青、紫、いろいろ
とりどりの模様のがあつて、奥に
美しく、同じようなものが壁にも少
しずつ見られる。又天井からは
シヤンテリアが吊られてゐる。特に
目につくのは、祭壇や御聖体拜
台が大聖石で築かれてゐる事だ。そし
てあまりにも聖堂が広いを、さう
さくも細く見える。両側のところ
にある十字架の道行の御影は、彫刻で
きれいに彫られてゐる。又この聖堂
の後方に二階があり、そこから、き
れいな讃美歌が流れてくる。オルガ
ンの音の美しいのは、特に僕の耳に
強く感じられた。

このように聖堂の情景は、我を忘
れて、祈る事さへもどこかに深ん
で行つてしまつてゐた。いよいよ祝堂
式が土井大司教のもとに行われ
てそれが終つて、すぐ土井大司教の
社殿高座に上がられ、盛大に行われ
る。聖堂成立最初のミサにあずか
られた事を
唱へて思つた。

聖堂を去つてヘルベック先生と
一箱に來て又建と一箱に上智大
を見学し、社殿高座にあつた。
備途、かんずめのように自動車に
めこまれて、上智大と別れにつ
たのである。楽しい一日であつた。
(34)

聖堂を去つてヘルベック先生と
一箱に來て又建と一箱に上智大
を見学し、社殿高座にあつた。
備途、かんずめのように自動車に
めこまれて、上智大と別れにつ
たのである。楽しい一日であつた。
(34)